



★CO₂モニター(二酸化炭素濃度計)について



各教室・共用教室などに順次、CO₂モニターを取り付けています。CO₂モニターは、大気中の二酸化炭素を計測することで、換気の日安を知るために使用される濃度計です。夏場は冷房が入る事によって、換気状態が悪くなる可能性があります。締め切った教室の中で、二酸化炭素濃度が上昇すると、眠気や倦怠感・不快感などが出てくる事もあり、快適な学習環境とは言えません。

また、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに室内の換気が叫ばれ、学校や医療機関、および公共施設のほか飲食店をはじめとした店舗などでも広く普及しました。現在では新型コロナウイルスは空気感染の報告がないものの、感染者より放たれた飛沫は短時間空中を漂うことがあり、それを吸い込み感染してしまうおそれがあります。そのため、感染源になり得る飛沫が同じ場所で漂い続けることを防ぐためにも、CO₂モニターを確認しながら、教室内の換気を適切に行い、良好な学習環境を作っていきましょう。



このようなモニターを、教室の黒板の右横上方に取り付けています。3年生課題研究グループ(荒木先生)の今村さん、黒田さん、小西さん、佐々木さん、田邊さん、川嶋さん、倉山さんが取り付け作業をしています。随時、手伝ってくれている3年生もいます。ありがとうございます。

★CO₂濃度表示について <約5秒毎にCO₂濃度が更新、表示されます>

CO ₂ 濃度	機器の動作	喚起内容
400~700 ppm	— 	理想的な状態です。 換気が十分実施されています。
701~1000 ppm	—	濃度上昇に注意してください。 定期的な換気が必要です。
1001~2000 ppm	バックライト赤点灯	換気が必要です。眠気や不快感を感じる場合があります。
2001~5000 ppm	バックライト赤点滅 	長時間続くと健康を害するおそれがあります。速やかに換気をしてください。

積極的な熱中症予防行動 ~暑さ指数・気候変動にも注意！気象情報のチェックも大切です！~

のどが渇く前にこまめに水分をとる、適切にエアコンなどを使う、休日どうしても急ぐ用事などがある場合以外は外出を控える、家族や身の回りの人同士で熱中症に気をつける様に声をかけ合う、十分な睡眠と栄養をとる、など出来る事は沢山ありますので覚えておいてください。